

日本のことわざで使われる四足の動物の分析

概要

デセラ ヤヌアル

0842002



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

バンドン

2012

## 序論

言葉は人間が感情を伝えたり表現する手助けをするコミュニケーションツールである。しかし、時に人は思っていることを上手く表現出来ないこともある。そのような時に、ことわざを使う。

浜島（2001：203）によると、次のように述べている：

「古くから言い習わされてきた、教訓・風刺などをその内容とする短い句をことわざと言う。」

ことわざは、動物、植物、体の部分などに関係に基づいて分類することができる。動物のカテゴリーの中でも、いくつかの群に分類することができる。野生動物とか飼育動物とか家畜などの四足の動物がある。動物は、外部からの動きに応答して、運動の力を持っている生き物を、群がって住んでいる。

この分析の目的は、四足の動物を使用する日本語のことわざの意味や機能やどのような状態と状況で使用するかを説明する。使用される方法は、説明的な分析方法である。そして、使用される技法は、私が適当なデータを収集し、分析をする文献の研究である。

## 本論

### 1. 野生動物類を使用している日本語のことわざ分析

#### (25) 虎は千里行って千里帰る (KK, 1999 : 365)

このことわざの意味は、子供のことを考える非常に深い親の愛を表したものである。両親は確かに自分の子供を愛し、虎もそうする。虎も虎の子を愛し、それらの世話をする。虎は一日に千里を行っただとしても、子を思い出すとき、子どものために千里の距離を戻る。つまり、「子を思う親の情愛がきわめて深いことのたとえ」という意味である。

### 2. 飼育動物類を使用している日本語のことわざ分析

#### (5) 犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ (KJ, 2011 : 47)

このことわざの意味は、「まして人間は受けた恩を忘れるような恩知らずであってならない」という戒め。犬は忠誠を尽くすペットとして知られている、人の恩を忘れないので、このことわざで使用される。犬は3日だけ愛情を込めて飼えば、長い時間にわたって受けた恩を忘れない。つまり、「犬は三日飼って、かわいがるだけで三年もその恩を忘れない。犬でさえそうなのだから人間は恩を忘れないのが当然ということ」という意味である。

### 3. 家畜類を使用している日本語のことわざの分析

#### (50) 豚に真珠 (KD, 1989 : 1013)

このことわざの意味は、無駄なことをすることである。どんなに値打ちのあるものでも、その値打ちがわからない者には、何の役にも立たず、無駄であることのととえ。豚に真珠を与えることは無駄なことである。豚はそれらに与えられた真珠の価値がわからないからである。つまり、「価値がわからない者には、貴重な物も何の役にもたたないことをたとえていう」という意味である。

### 結論

第三章の分析によれば、日本のことわざで使われる四足の動物は多くの場合、愛情・忠誠心・他人に対し敬意を払わないこと・虚栄心等を表すのに使われている、と結論付けられる。ことわざにおける四足の動物の使用から分かることは、多くの場合否定的な意味を含むということである。日本のことわざで肯定的な意味を含んで使用される四足の動物は、犬と虎である。

ことわざそのものの役割は何が起きているかを描写することであるが、それを加え、直接口に出すと角がたったり人を傷付ける恐れのあることを相手に伝えること、とも言えるのではないか。ことわざの使用は、正確な状況に合わせて調整する必要がある。通常は、他人に思っていること

を伝えない時，相手を傷付ける恐れるがある時，ことわざが使われる。先ほどの分析から分かるように、四足の動物が登場する諺は、ある条件・状況が動物の特徴と結び付いた時に使われている。

## DAFTAR ISI

<b>KATA PENGANTAR</b> .....	ii
<b>DAFTAR ISI</b> .....	iv
<b>BAB. I    PENDAHULUAN</b>	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah .....	6
1.3 Tujuan Penelitian .....	6
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian .....	7
1.5 Organisasi Penulisan .....	8
<b>BAB. II    KAJIAN TEORI</b>	
2.1 Semantik .....	10
2.1.1 Makna Leksikal dan Makna Gramatikal .....	13
2.1.2 Makna Referensial dan Nonreferensial .....	14
2.1.3 Makna Denotatif dan Konotatif .....	15
2.1.4 Makna Kata dan Makna Istilah .....	15
2.1.5 Makna Konseptual dan Makna Asosiatif .....	16
2.1.6 Makna Kias .....	17
2.1.8 Makna Idiomatikal dan Peribahasa .....	17
2.2 <i>Kotowaza</i> .....	18

2.3 Hewan.....	20
2.3.1 Kucing ( 猫 = <i>neko</i> ) .....	21
2.3.2 Anjing ( 犬 = <i>inu</i> ) .....	22
2.3.3 Kelinci ( 兎 = <i>usagi</i> ) .....	22
2.3.4 Sapi ( 牛 = <i>ushi</i> ) .....	23
2.3.5 Kuda ( 馬 = <i>uma</i> ) .....	23
2.3.6 Harimau ( 虎 = <i>tora</i> ) .....	24
2.3.7 Serigala ( 狼 = <i>ookami</i> ) .....	24
2.3.8 Rubah ( 狐 = <i>kitsune</i> ) .....	25
2.3.9 Musang ( 狸 = <i>tanuki</i> ) .....	25
2.3.10 Kambing ( 羊 = <i>hitsuji</i> ) .....	26
2.3.11 Babi ( 豚 = <i>buta</i> ) .....	26
2.4 Rangkuman Teori .....	26

### **BAB. III ANALISIS KOTOWAZA YANG BERHUBUNGAN DENGAN HEWAN DALAM BAHASA JEPANG**

3.1 Analisis <i>Kotowaza</i> yang Menggunakan Hewan Buas	
3.1.1 <i>Tora no o o fumu</i> ( 虎の尾を踏む ).....	29
3.1.2 <i>Tora wa senri itte senri kaeru</i> ( 虎は千里行って千里帰る )...	29
3.1.3 <i>Tora wa shi shite kawa o tome, hiro wa shi shite na o nokosu</i> ( 虎は死して皮を留め, 人は死して名を残す ) .....	30

3.1.4	<i>Tora no ko</i> (虎の子) .....	31
3.1.5	<i>Ookami ni koromo</i> (狼に衣) .....	32
3.1.6	<i>Ookami to majiwaru mono wa hoeru you ni naru</i> (狼と交わる者は吠えるようになる) .....	33
3.1.7	<i>Tanuki ga hito ni bakasareru</i> (狸が人に化かされる) .....	34
3.1.8	<i>Tanuki neiri</i> (狸寝入) .....	35
3.1.9	<i>Kitsune to tanuki</i> (狐と狸) .....	36
3.1.10	<i>Kitsune ga heta no iruya o osoru</i> (狐が下手の射る矢を恐る) .....	37
3.2	<b>Analisis Kotowaza yang Menggunakan Hewan Peliharaan</b>	
3.2.1	<i>Inu ichidai ni tanuki ippiki</i> (犬一代に狸一匹) .....	38
3.2.2	<i>Inu wa hito ni tsuki neko wa ie ni kutsu</i> (犬は人につき猫は家にくつ) .....	39
3.2.3	<i>Inu wa mikka kaeba sannnen on o wasurenu</i> (犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ) .....	39
3.2.4	<i>Neko ga koereba katsuobushi ga yaseru</i> (猫が肥えれば鰹節が痩せる) .....	41
3.2.5	<i>Neko no mae no nezumi</i> (猫の前の鼠) .....	42
3.2.6	<i>Usagi mo nanuka nubureba kamitsuku</i> (兎も七日ぬぶれば噛み付く) .....	42
3.2.7	<i>Usagi o mite Inu o yobu</i> (兎を見て犬を呼ぶ) .....	43
3.2.8	<i>Usagi no tsuno, kame no ke</i> (兎の角, 亀の毛) .....	44



3.2.9	<i>Usagi heihou</i> (兎兵法)	45
3.2.10	<i>Usagi no momohiki</i> (兎の股引)	47
3.3	Analisis <i>Kotowaza</i> yang Menggunakan Hewan Ternak	
3.3.1	<i>Uma no mimi ni nenbutsu</i> (馬の耳に念仏)	48
3.3.2	<i>Uma o suien ni tsurete iketemo mizu o nomaseru koto wa dekinai</i> (馬を水辺に連れて行けても水を飲ませることはできない)	48
3.3.3	<i>Ushi wa ushizure, uma wa umazure</i> (牛は牛連れ, 馬は馬連れ)	50
3.3.4	<i>Ushi no tsuno o hachi ga sasu</i> (牛の角を蜂が刺す)	51
3.3.5	<i>Hitsuji o katte tora to tatakawau</i> (羊を駆って虎と闘わう)	51
3.3.6	<i>Hitsuji no ban ni ookami</i> (羊の番に狼)	52
3.3.7	<i>Buta ni shinjyu</i> (豚に真珠)	53
3.3.8	<i>Buta o nusunde hone o hodokosu</i> (豚を盗んで骨を施す)	54
<b>BAB IV.</b>	<b>KESIMPULAN</b>	57
	<b>DAFTAR PUSTAKA</b>	60
	<b>LAMPIRAN</b>	viii
	<b>SINOPSIS</b>	xvii
	<b>RIWAYAT HIDUP</b>	xxi